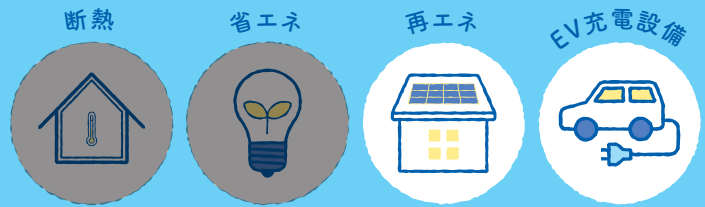


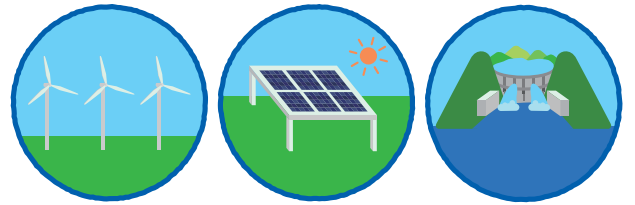
経済的で防災にも役立つ！

再エネ設備



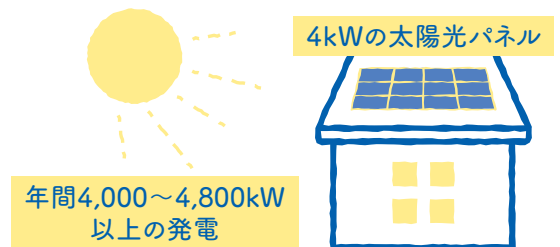
再エネ設備とは

再生可能エネルギー、つまり「再エネ」とは、太陽光や風力・水力などの自然の力を利用したエネルギーのことです。温室効果ガスを排出しないため、気候変動対策に非常に有効です。また、電気やガスの使用量を減らせるので、光熱費の削減にもつながります。



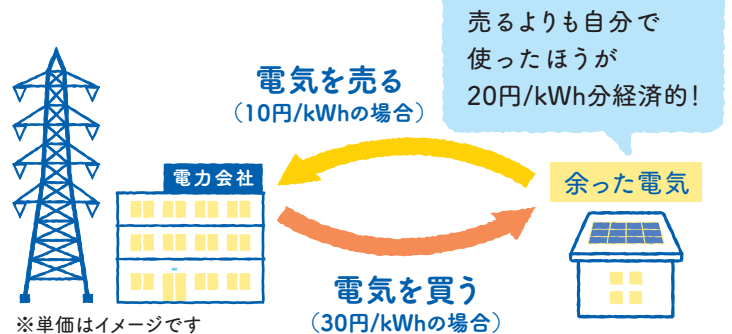
太陽光発電の経済メリット

住宅屋根に4kWの太陽光パネルを設置した場合、一般家庭で一年間に必要な電力量の約8割程度の発電量が期待できます。



太陽光パネルで発電した電気の使い方

家庭での電力消費量は、一般的に夜間にピークを迎えます。一方、太陽光パネルによる発電量のピークは、日射の多い昼間となるため、発電した電気を家庭で使いきれないことがあります。余った電気は、電力会社に売ることができますが、売る時の単価が買う時の単価よりも低い場合は、自身で使った方が経済的です。

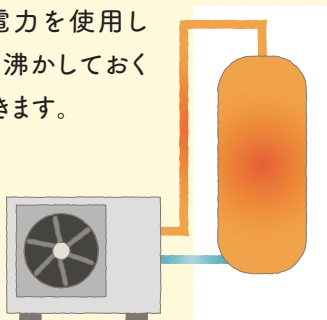


発電した電気を活用する方法

昼間の電力を活用する方法をご紹介します。

●おひさまエコキュート

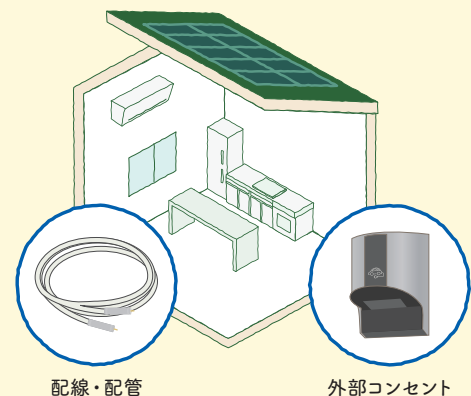
昼間の電力を使用してお湯を沸かしておくことができます。



●充電設備

発電した電気を蓄電池や電気自動車にためて使用します。

※建築物環境報告書制度の基準に適合した住宅には、電気自動車の充電設備(外部コンセント等)が設置されていたり、将来、最小限の工事やコストで充電設備を設置できるよう、住宅内部に配線や配管が備え付けてあります。



再エネ設備には「防災」にも役立つメリットがあります

メリット1

日中停電時でも電気を使える

太陽光パネルには、「自立運転機能」があります。この機能を活用すれば、日中であれば停電時でも電気が使えます。

●「自立運転機能」の使い方

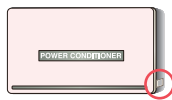
- ①「主電源ブレーカー」をオフにする
- ②「太陽光発電ブレーカー」をオフにする
- ③「自立運転モード」に切り替える
- ④「自立運転用コンセント」に必要な機器を接続して使用する

事前に確認しておこう！

機種やメーカーによって操作方法や自立運転用コンセントの位置が異なります。停電時に備えてあらかじめ取扱説明書や各社のHP等で確認しておきましょう。



非常用コンセントがある場合



パワーコンディショナーにコンセントがある場合

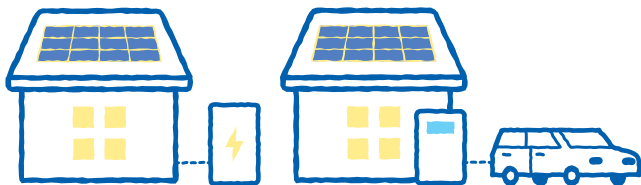


※太陽光パネルの最大出力に関係なく、1,500Wが上限となっています。冷蔵庫やテレビが使える、スマートフォンの充電もできます。

メリット2

夜間も電気を使える

蓄電池やV2Hがあれば、日中に発電した電気をためておくことができるので、夜間も電気を使えます。

「V2H」(ブイ・ツー・エイチ)
Vehicle to Home

充電設備の一種。V2Hは電気自動車を充電するだけでなく、電気自動車に充電した電気を住宅で使うこともできるため、電気自動車を電源として使うことができます。

🏠 太陽光パネルの定期的な点検

一般的な住宅地では、定期的に屋根に登って掃除をする必要はほとんどありませんが、日頃から発電量を確認しておく、不具合に気づきやすくなります。発電量の低下が確認された場合は、メーカーや施工店など専門業者にお問い合わせください。

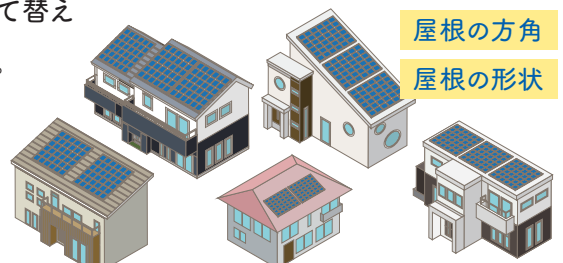
🏠 太陽光パネルを設置する前に

太陽光パネルの導入に向けて、設置環境を確認しておきましょう。住居地域や商業地域などの用途地域によって、建てることのできる建物の種類や高さなどが異なります。エリアによっては、将来、近隣での新築や建物の建て替えなどにより、発電量に影響する可能性があるため確認しておきましょう。

〔 太陽光パネルの発電量に影響する要因 〕

屋根の方角

屋根の形状



参考：用途地域は、都市計画情報等インターネットサービスで確認できます。

https://www2.wagmap.jp/tokyo_tokeizu/Portal

